

5 Expanding research across disciplines

研究を学際的に展開したい

第16回

「議論の十字路、百万遍」

百万遍談議

かつて百万遍周辺の喫茶店では、「読書会」と称して、違う分野の学生が集まってひとつのテーマで議論をする姿がしばしば見られました。コーヒー1杯で数時間いても店の人は気にもせず、ひたすらコップにお水をついでくれたものです。あるいは「下宿」に集まってなされた議論は、同じ下宿の他学部の人だけでなく、他大学の学生も加わって、それこそ朝まで延々と続けられたというのが茶飯事でした。

最近ではコロナの影響もあり、学生同士の議論というものが影をひそめているように思います。加えてそもそも喫茶店自体がどんどん少なくなっていっています。そこで、往時に盛んであったそんな議論の場を、「百万遍談議」として復活させようという思いから、このような企画が作られました。参加資格は、京都大学の学部学生であれば、学部や学年は問いません。

授業ではありませんので、なにかこうしなければいけないという義務はなく、単に興味があるから参加して、人の話をきき、自分の考えを述べる。それだけです。毎回のテーマに関して、なにか知識が必要ということはありません。唯一お願いするのは、毎回提示される文章をともかく読んでくること、それだけです。また、「議論」はしますが、なにか結論を導こうとして話をするわけではありません。テキストを読んで思ったことを自由に話してもらえばいいわけで、もちろんその場で誰かの発言をきいて思いついたことを話しても結構です。

「人はこんなことを考えているんだ」ということを知るだけでも楽しいですし、さらには、自分の考えを人にきいてもらうことの楽しさも、大学生に与えられたある種の特権です。気軽な気持ちで参加してください。いろいろな人と人、人と言葉あるいは考えの出会いが生まれることを楽しみにしています。

開催日時 2024年4月27日[土]15:30-17:00

話題提供者 沼田 英治 (学術研究展開センター 特定教授)

テーマ 「生物の時間と人間の生活」

会場 楽友会館 2階会議室5 (京都市左京区吉田二本松町)

今回は上記のテーマについて、ともに考えてみたいと思います。テキストは下記QRコードの申込フォームに記載のリンクからダウンロードして読んでください。

対象：京都大学学部学生(正規生)先着10名 費用：無料 使用言語：日本語

申込方法：下記URLもしくは右記QRコードよりお申し込みください
<https://www.kura.kyoto-u.ac.jp/event/20240427/>



これまでの開催記録はこちら
<https://www.kura.kyoto-u.ac.jp/support/gakusai/dangi/>



主催・お問い合わせ 京都大学学術研究展開センター (KURA) 「百万遍談議」担当 | jinsha@kura.kyoto-u.ac.jp



2024年4月27日
百万遍談議 開催報告

第16回 生物の時間と人間の生活

話題提供者

沼田 英治 学術研究展開センター 特定教授

参加者：9名

[内訳]

1回生3名（うち1名は法学・2名は工学）

3回生3名（文学・工学・農学）

4回生3名（総合人間学・文学・法学）

談議メモ

今回は新年度初回ということもあり、特別に本学所有の登録有形文化財である楽友会館にて実施しました。

テーマは「生物の時間と人間の生活」とし、南太平洋の島に住むパロロという動物と現地の人びとのリズムが紡ぎ出す不思議な物語をめぐる議論しました。もっとも話題が集中したのは、使用テキストにて紹介されたパロロの海水中での受精にみられる不思議——「毎年10月末から11月初めの2回、夜明けが満潮と重なる時に、パロロの発達した生殖巣を含む後半部分がちぎれて泳ぎ出して海水面まで上昇し、そこで卵と精子を放出する」——であり、しかもその環境条件が特段パロロの生殖にとって都合がよいわけではない、という点が参加者のみなさんの頭を悩ませることに。

その生態の謎については、専門家のあいだでも解明されておらず、話題提供者の沼田英治 特定教授（動物生理学・行動学）とともに、みなでヒトや素数ゼミといった他の生物の生存戦略とも比較しながら、それぞれの考えをぶつけ合いました。

後半には、現地の人びとがパロロのそうした行動を把握・伝承していて、毎年彼らが泳ぎ出す日と時刻にあわせて漁に繰り出し、網で大量にすくって美味しく食べている、という事実に着目しました。その伝承の不思議に迫る際には、「古くから地元の人びとは月や星座の配置をもとに経験則で知っていたのでは」「預言者（foreteller）の存在が文献にみられることから、宗教儀式といった文化に組み込まれていたのかも」といった意見がみられました。

終盤には、緑色で各節にいぼのあるミミズのような形をしたパロロを食すことについて、「何を気持ち悪い／美しいと感じるかは文化の違いによるのでは」「異常な好奇心がある個体の存在が生存戦略につながるのでは」などという意見も飛び出す傍ら、生物の色素と進化をめぐる不思議にも話題が及び、終始賑わいをみせた回となりました。